

千代田図書館「としょかんのこしょてん VOL. 38」

日中印譜の世界

千代田図書館内の一角に設けられた、神田古書店連盟との連携展示・出張古書店コーナー「としょかんのこしょてん VOL. 38」のご案内です。

7月29日(木)まで「日中印譜の世界」と題し、法帖類や拓本、印譜などを扱う飯島書店より、9点を展示・販売(仲介)いたします。

中国より日本へ渡り、一つの文化として確立している印譜集の数々をご覧ください。

としょかんのこしょてん VOL. 38

日中印譜の世界

会期:開催中～7月29日(木)

場所:千代田図書館 出張古書店コーナー「としょかんのこしょてん」

担当:飯島書店／書道中心の専門店

印譜の歴史は、中国の「宋」の時代より始まり、「清」の時代になってから本格的に作られるようになったと言われています。印章を紙に押し、本としての体裁をとったもので、研究、あるいは鑑賞が主な目的であります。印譜は大まかに次の2つに分けられ、それぞれ実押(実際の印を直に押し取ったもの)・影印・印刷と色々な種類が見られます。

- ① 歴史上有名、無名の古印を収録したもの
古璽印・古銅印譜、漢銅印譜などとも呼ばれる。
- ② 元・明の時代以降の優れた印人が作成した名印を後に収集作成したの
作品を確保・保存する意味合いが大きく、それを用いた個人や団体によって
作られる場合もある。

本展では、古代中国の銅印を清朝の時代に多数(一万三百七十六印)集め編集した、「十鐘山房印拳(じゅっしょうさんぼういんきょ)」を始めとした、現代に至る中国と日本の印譜をご紹介します。中国より日本へ渡り、一つの文化として確立している印譜集の数々をお楽しみください。

【出品リスト】

①十鐘山房印拳		1922年(民国11年)刊	350,000円
②吳昌碩印譜	吳昌碩	1955-1960年刊	20,000円
③苦鉄印選		1977年刊	47,000円
④削觚廬印存初集	吳昌碩	1977年刊	14,000円
⑤吳趙印存	吳讓之・趙之謙	1979年刊	45,000円
⑥有竹斎葢璽印	上野有竹斎	1917年刊	180,000円
⑦荃廬印存	河合荃廬	1956年刊	25,000円
⑧荃廬先生印存	河合荃廬	1976年刊	75,000円
⑨東魚撫古印存	松丸東魚	1976年刊	25,000円

◇出品内容は予告なく変更になる場合があります。

本件お問合せ先：千代田図書館 広報担当：坂巻・米村 TEL 03-5211-4288
お客様お問合せ先：TEL 03-5211-4289・90／千代田区九段南 1-2-1 千代田区役所 9・10階